

## 開催報告

## 分科会

平成18年度第2回クリティカルパス実践セミナー in 熊本  
-クリティカルパスの概念・必要性の理解と作成活用能力の向上-  
国立病院機構長崎医療センター脳神経外科 高島英昭



会場風景

平成19年2月21日熊本で行われた平成18年度第2回クリティカルパス実践セミナーに参加させていただく機会に恵まれ大変有意義な2日間を過ごさせていただきました。そもそも、10年以上前に私が大学を卒業するころには「クリティカルパス」

についての系統立った講義を受けたこともなければ、「クリティカルパス」なるものの言葉すら聞いたこともありませんでした。そのようにしながら、これまで断片的な知識やあやふやな理解のみでなんとなく過ごしてきたものを、「クリティカルパス作成の基本」や「バリエーション分析について」の講義を通じて断片的な知識が整理され、あやふやな理解がより確かなものへ変わったことを自分なりに感じました。特に、問題解決型から目標達成型に変わってきた現在の医療のあり方を現実的な形で実践し、かつ、より良い医療を患者さんに提供するツールとしてのクリティカルパスのあり方を正しく認識できたことは非常に意義深いことでした。また、アウトカム評価・バリエーション分析を通じてクリティカルパスの改訂を行うことで医療の質の改善が実現されることを理解でき、今後の私たちの診療の中にもそのような手法を是非生かしていきたいと強く感じました。

グループワークでは初めてお会いする多職種の方々と、短い時間の中で、それぞれがそれぞれの役割を持ちながら自分たちのクリティカルパスを作成するという体験を初めてさせていただきました。このように多くの職種のもものが集まってクリティカルパスを作成するという作業は、自分たちの院内でも当然行われるべきものであり、理想的にそうありたいと常々思ってきたものでありながらも、実際には実現できていなかったことでした。セミナーの中であれ、そのような作業を実際に体験させていただいたことは大きな刺激となるものでした。また、クリティカルパス作成とは、皆で少しずつ力を出し合えばこのように楽しく容易に行えるものであったかと感じさせてくれるものでもありました。

「電子クリティカルパス」および「地域連携クリティカルパス」についての講義は、電子カルテが運用されている病院に勤務し、今後地域の中で脳卒中関連のクリティカルパスを実際に運用していこうとしている私にとって様々なヒントを与えてくれるものでした。また、セミナーに併せて第46回国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会に参加させていただき、国立病院機構熊本医療センターの医療に対する先進的な取り組みについて、その生の姿を垣間見させていただいたことは私たちセミナー参加者にとって強い刺激となるものでした。

学び感じるだけでなく、今回のセミナーで得たものを今後は自分の病院に持ち帰り実践していくことで、理想的な医療のあり方を現実のものに近づけていけるよう努力していこうと思います。

密度の濃く有意義な2日間を過ごさせていただき、セミナーを開催していただいた皆様には心より感謝申し上げます。

## 開催報告

## 地方会

## 第6回福井県地方会

会長：福井厚生病院副院長 濱中英樹



会場風景

平成19年2月10日(土)、第6回福井県地方会が福井商工会議所を会場として開催されました。今回のメインテーマは「感染」で、一般演題11題、各病院の「ICTの取り組み」をシンポジウムとして6題が発表・討論されました。

暖冬というこの時期には珍しい雪がない天気、昨年からのノロウイルスや鳥インフルエンザの流行、さらに「感染」という誰もが関心を持ち身近な話題であったため当初の予想を超える300名近くの参加者が集まり、会場の雰囲気も討論の内容も熱く盛り上がりました。

最後に土井英史先生に「最新の感染対策～感染対策における質改善プログラム」という講演をしていただきました。日本やアメリカ、さらにはヨーロッパにおける感染に対する最新の情報・話題を、いつもながらのユニークな口調で多数紹介していただきました。特に“Care Bundle”とか“High Impact Intervention”という新しい感染対策の概念は非常に印象に残り大変有意義なものとなりました。

第7回は市立敦賀病院の山崎洋先生の担当で開催の予定です。

## 第7回東京地方会

会長：公立学校共済組合関東中央病院院長 前川和彦

平成19年2月10日(土)、第7回東京地方会が港区南青山のホテルフロラシオン青山にて開催されました。昨今の激変する医療環境の中にあって、従来型の経験則による病院運営ではなく、病院の全ての職種の者が参加し考える、より科学的な病院マネジメントを目指し、今回のメインテーマは「よりよいチーム医療の実践のために」とされました。45題の一般演題は、全てを自由に活発な質疑応答が可能なポスター発表としました。

また、特別講演では高橋淑郎教授(日大商学部)より病院におけるバランス・スコアカードの本来的なあり方について、岡田隆志弁護士からはいかに医療紛争を回避していくか、坂本憲枝氏(消費生活アドバイザー)からはユーザーの視点に立った医療のあり方についてのお話を、それぞれうかがう事ができました。昼食時に行われたランチョンセミナーは盛況で、日本赤十字社医療センターの鈴木一郎氏より脳卒中の地域連携ネットワークとクリティカルパスのご講演をいただきました。

多くの関係者の皆様の御支援により、無事に地方会を終了できましたことに心より御礼申し上げます。

(文責：公立学校共済組合関東中央病院副院長 早川宏)

## 第6回千葉地方会

地方会会長：成田赤十字病院長 加藤 誠  
代表世話人：東京歯科大学市川総合病院副院長 森下鉄夫

第6回千葉地方会学術集会在平成19年2月24日(土)に、